鹽竈神社について

昭和六十三年十一月二日　宮司　布施昭二

一、鎮座地　新潟県　岩船郡　神林村　塩谷　一、一九七番地　境内敷地　一、六四九平方メートル

二、神社名　鹽竈神社

三、祭神　主祭神　塩土老翁命（しおつちのおじのみこと）

古事記では鹽椎神（しおつちのかみ）・・・潮路を掌る神の意

上巻　火遠理命（ほおりのみこと）・・・海神、（わたつみ）の宮訪問の際案内役となる

書記では塩土老翁

合殿　神武天皇御東征の道案内を務める

天照皇大神（あまてらすすめおおみかみ）

古事記では天照大御神（三貴子の一）

上巻　伊邪那岐（いざなぎの）命と伊邪那美（いざなみの）命

禊祓（みそぎはらい）と神々の化生

水波売市（みずはのめのみこと）

古事記では弥都波能売神（みつはのめのかみ）

上巻　伊邪那岐命と伊邪那美命・・・神々の生成

書紀では水神罔象女（みつはのめ）

四、祭儀　例祭　九月二十日　（参考）一年に一度奉仕する其の神社に御縁の深い大祭

春祭（祈年祭）　四月二十日　（参考）年とは穀物特に稲の意、即ち豊年祈願祭である

歳旦祭　一月一日

年賀祭　一月十一日

五、社殿　本殿　堂社造　間口二間　奥行二間

幣殿　平屋造　間口三間　奥行四間

拝殿　堂社造　間口五間　奥行三間半

六、由緒　承安三年（一一七三）創建　場所は当部落字古屋敷（現在の松和町）と伝えられるも、位置は不明

（参考）建久三年（一一九二）源頼朝　征夷大将軍となる

慶長二年（一五九七）再建　本庄出羽守家長、父重長の病気平癒武運長久祈願の為と伝えられる

（参考）慶長三年（一五九八）上杉景勝　会津へ移封

慶長五年（一六〇〇）関ケ原の戦

慶長年間　円福寺四世　春海上人　当社別当職と成る。以後明治八年まで継承

享保十六年（一七三一）境内狭溢の為現在地に移建

（参考）享保六年（一七二一）内藤氏　村上へ移封

享和三年（一八〇三）神祇官公文所上家より　正一位記許さる

（参考）翌年　文化　と改元

明治八年（一八七五）円福寺十六世　権大僧都清海上人　復飾し神職となる

（参考）布施家（布施大字守行正）を再興　布施新行一　と称す

明治十一年）一八七八）本殿再建　現在に至る

昭和十二年（一九三七）村社に列格

昭和十八年（一九四三）拝殿及び幣殿改築

昭和三十九年（一九六四）新潟地震により拝殿及び幣殿大破せしも其の後復旧現在に至る

七、諸国の鹽竈神社（鹽竈神社史料　昭和二年　国幣中社志波彦神社鹽竈神社社務所　発行による）

全国合計　一一一社（多い県・・・福島、香川　各一七　社）

新潟県計　七　社

村上市　一　社　柏尾　鹽竈　神社　創立年月不詳　陸前国鹽釜本社の分霊を受け継ぐと伝う

岩船郡　二　社　神林村　塩谷　鹽竈　神社　承安三年創立

粟島浦村　釜谷　鹽竈六所神社　天明六年創立

北浦原郡中条町　荒井浜　鹽竈　神社

北魚沼都広瀬村　三淵沢　鹽竈　神社　由緒不詳

中頸城郡高士村　大口　鹽竈神社　由緒不詳

佐渡郡相川町江戸沢町　鹽竈　神社　往古陸奥国の人勧請、明治六年村社に列せられる